
「摂津市における地域医療と多職種連携（現場からの報告）」

切東美子

（摂津ひかり病院）

平成 25 年 8 月に開かれた社会保障制度改革国民会議の最終報告では、今後我が国が取り組むべき社会保障の目標の一つとして、地域社会における協働の仕組みづくりが必要であることが強調されている。厚労省は『地域包括ケア』という概念のもと医療と介護の連携を進めようとしている。摂津市でも人口約 8 万人の中で、高齢化率が 23%に達し、後期高齢者、認知症高齢者、一人暮らし高齢者が増加を続けている。こうした超高齢化社会における地域医療の在り方を考える一助として、摂津市医師会では、昨年実施したアンケート調査を基に医療側からみた多職種連携の現状を明らかにした。また、介護保険関係の各種データから浮かび上がったのは、多職種による在宅療養へのサービス提供が急速に増加し、これからの医療は“連携”なくしては成立しないという現実である。これからの地域医療では、個人を対象とした医療と、地域全体を対象とした予防医療の両面を理解した新しいタイプの医師の活動が期待され、それが『地域包括ケア』成立の要件と考える。

キーワード 地域包括ケア 多職種連携 地域医療